



国民の森林・国有林

中部森林管理局

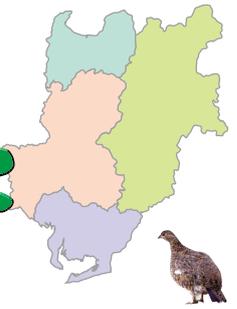
〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



神坂首席森林官から国有林の取り組みを聞く高校生(東濃署)

森林・林業への関心を高めて その魅力を学ぶ

主な項目	○平成26年度国有林モニター会議の開催	P2
	○各地からのたより	P3
	○寄稿 「森林鉄道と私の半生」	P6
	○シリーズ「森林官からの便り」	P6
	○シリーズ「ご当地自慢」	P8

平成二十六年 国有林モニター会議

【企画調整課】 六月二十五日、中部森林管理局大会議室（長野市栗田）において、国有林モニター会議を開催しました。

国有林モニターとは、幅広い国民の皆様の声を国有林野の管理経営に反映させていくため、応募により委嘱した方々です。今年度から二年の任期で国有林モニターとなる三十五名のうち管内一円から二十一名の方にお集まりいただき、当局からは局長、総務企画部長、計画保全部



会議の様子

長、森林整備部長、総務課長、企画調整課長が出席しました。

会議は、参加者の紹介後、中部森林管理局の平成二十六年度の事業概要の説明、国有林モニターアンケート（第一回）結果の説明及びモニターの皆様さまでのご意見やご質問に対する局としての考え方を説明した後、意見交換を行いました。



発言されるモニターの皆さん

国有林モニターの皆様からは、「地球温暖化等の取り組みについて理解できた」、「イベント情報等発信をお願いしたい」、「各種資料の言葉遣いが難しい」、「地域にあった施策が必要である」、「広葉樹も含め用途にあった木材供給が必要」、「海外の林業にも学ぶべき」、「花粉



モニターの皆さん(前列中央が奥田局長)

対策が必要」、「木曽地方の温帯性針葉樹林の保全・復元の取り組みは重要である」、「山の事を若い人、子供達に広げていく必要がある」など貴重なご意見をいただきました。

また、閉会後に実施したモニター会議についてのアンケートでは、「意見交換、会議の時間が短かった」、「今後の現地視察が楽しみ」、「森林管理局の活動やイベント等もっとアピールすべき」といったご感想、ご要望をいただきました。

局としても、今回の国有林モニター会議でいただいた貴重なご意見を、これからの国有林野の管理・経営に活かしていきたいと考えております。

【木材の販売情報から】

「木曽署から天然カラマツ等を出品！」

【名古屋事務所】 七月十五日に岐阜県銘木協同組合の原木市「木魂祭特別市」が開催されました。定期的に梅雨時期ということもあり、出品状況に品薄感がある中、木曽森林管理署から委託販売として、天然カラマツ、天然サワラ等（三十三本・約三十二立方尺）が出品されました。

当日は、全国から多くの木材流通関係者が集まり、夏の日差しが照りつける中、セリが熱心に行われました。

木曽署から出品された原木は、市場関係者の宣伝効果やレア感も手伝い天然カラマツ、天然サワラに注目が集まっていました。

今回、木曽署から出品された丸太の



木魂祭特別セリ売りの様子

樹種ごとの最高値は、天然カラマツ二十二万円／立方メートル(四十二センチメートル×四・四メートル)、天然サワラ三十万円／立方メートル(七十二センチメートル×五・〇メートル)、ヒメコマツ十五万円／立方メートル(五十センチメートル×四・〇メートル)、ナラ十五万円／立方メートル(四十八センチメートル×四・四メートル)と、高値がつかまりました。

セリに参加した買付人からは、「今回はいつ天然カラマツが出品されるのか？」などの問い合わせもあり、貴重な市場情報等を得られたと感じています。

また、出品にあたっては、現地で十分採材検討などを行ったことが、今回の有利販売につながったものと考えています。

岐阜県の関係者の皆さんと意見交換会

【企画調整課】七月十六日、中部森林管理局(長野市栗田)において、岐阜県議会、岐阜県林政部、岐阜県森林施業協会、岐阜県林政部、岐阜県森林施業協会の皆さんとの意見交換会を開催しました。

今回の意見交換会は、岐阜県議会、岐阜県及び岐阜県森林施業協会による森林・林業に関する調査の一貫として行われ、岐阜県議会早川議員をはじめ岐阜県林政部高井次長、岐阜県森林施業協会伊藤会長など十二名が来局されました。中部森林管理局からは奥田局長、高信総務企画部長、中村森林整備部長等が出席し、岐阜県内で建設が予定されている大



意見交換会の様子

規模製材工場やバイオマス発電施設への木材供給、コンテナ苗を活用した伐採と造林の一貫作業などの低コスト造林対策、ニホンジカ被害対策などについて、約二時間にわたり、活発な質疑・意見交換が行われました。

中部森林管理局としては、今回の意見交換会の議論も踏まえつつ、各県との連携により、国有林材の安定供給、低コスト造林、ニホンジカ被害対策等の取組を進めていきたいと考えております。

各地からのたより

高校生が木材の生産から建築までの一連の流れを学ぶ

【東濃署】七月七日、岐阜県立恵那農業

高等学校環境科学科の一年生四十名が、中津川市内で木材の生産、流通、加工及び建築までの一連の流れを見学し学習しました。

この取組は、岐阜県の「農林高校生林業就業促進事業」として、恵那農高、東濃森林管理署、恵那農林事務所の三者が連携して実施しました。

当日は、朝から生憎の激しい雨となり、湯舟沢国有林内の間伐事業地の見学の予定は、室内での座学に変更しました。まず、同国有林を担当する神坂森林事務所の羽田野首席森林官から、管内の概要説明を行い、次いで大野森林技術指導官から、林業のサイクル、間伐の必要性、間伐の効果等を説明しました。また、搬出間伐の工程や作業システム、高性能林業機械、採材方法について手作りのパネルとDVDを使って紹介すると生徒達は、興味深く画面を見つめていました。さらに、間伐を請け負っている事業体の担当者から、現場での作業の流れや、苦労話などを聞きました。若い現場

代理人が林業に対する思いを述べると、生徒達は真剣に耳を傾けていました。昼食後は、坂下地区にある原木市場に向かいました。ここでは、国有林から抛出されたヒノキの丸太が並ぶ土場で、市売りの方法や、高い値がつく丸太の見方などについて学習しました。「天然木曽檜」と「きそひのき」の違いについて丁寧な説明され、生徒達はよく理解した様子で

「多くの人の力で成り立っていることがわかった。」



モデルハウスでの説明

した。

次に、近くの製材工場を訪ね、丸太が柱や板になる工程を見学しました。丸太の皮を剥く機械、丸太の製材機、製材品の乾燥機などの説明を受け、生徒達は普段家で目にする木の柱や板がどのように作られているのかを間近かに見て大変関心を持った様子でした。最後の見学は、同製材工場が建てたモデルハウスです。

生徒達は、地元産のヒノキをふんだんに使って作られた家の中に入ると、木造住宅の素晴らしさに歓声を上げ、くつろいだ様子でした。木材生産から流通・加工、建築までを見学した生徒からは、「それぞれが分断しているのではなく、つながっていることが理解できた。」

か、やさしさを感じる。木材を使うことは大事なことだし、自分も木造住宅に住みたい。」との感想が聞かれました。

この取組は、今後も、一年生のカリキュラムとして継続して実施していくこととしています。将来、この生徒達の中から一人でも多くの者が森林・林業・木材産業に関連する職業に就いてもらえることを願っています。なお、今回の取組は、国有林から岐阜県庁の恵那農林事務所林業課に出向中の竹内智絵さんが担当し、国有林との調整や進行を務めました。県職員の立場で元気に活躍してる姿も合わせて報告いたします。



恵那農林事務所の竹内さんの講義

「水無湿性植物群落保護林」

で観察会

【富山署】六月七日、岐阜県境に近い富山県南砺市利賀村水無にある水無国有林



水無湿原でミズバショウを鑑賞

三〇五林班において「水無湿原観察会」が、NPO法人「利賀飛翔の会」主催で行われ、富山署は現地案内等で協力しました。

観察会には、約七十名の市内外のトレッキング愛好家等が参加されました。

水無湿原は、湿性植物であるミズバショウ、リュウキンカ等が、ブナ林に囲まれた平坦な沢沿いに生息しています。

現地到着後、主催者及び富山署等からのあいさつの後、散策を始めました。林道の散策では、「春の女神」として愛されているギフチョウが林道上を多数舞って参加者も感動されたようです。その後、水無湿原内の整備された木道を散策して、咲き始めたミスバショウ、リュウ

キンカ等を観察しました。観察会に参加された皆さんからは、「ミスバショウ等の貴重な植物等が観察できる水無湿原を、今後とも保護していただきたい。」との声が多くありました。



観察会に参加された皆さん

「高山植物等保護啓発

トレイディングカード」で

登山マナーを啓発

【中信署】北アルプス、美ヶ原一帯の市町村や山小屋関係者でつくる高山植物等保護対策協議会中信地区協議会事務局の中信森林管理署では、貴重な動植物保護のために登山のルールやマナーを書いたトレイディングカードを作り、山小屋へ

置くとともに、グリーンサポースタッフ等から登山者に配布しています。

カードは名刺より少し大きめで、表には国の特別天然記念物のライチョウやコマクサなどの高山植物のカラー写真を載せた六種類のカードを用意しました。また、それぞれの裏には、「高山植物・蝶などの採取は禁止されています」「ゴミ、余った食料は全て持ち帰りましょう」などの禁止事項を記しています。

近年、増加傾向にある韓国、台湾からの観光客も想定し、日本語のほか、英語、中国語（北京語）、韓国語で説明していますので、外国の人など多くの人にルールやマナーを知っていただくきっかけになればと思っています。

高山植物等保護啓発トレイディングカード
【写真面6種類】



【4カ国語面2種類】



高山植物等保護対策協議会 中信地区協議会

阿寺溪谷で景観整備作業

【南木曾支署】七月九日、長野県南木曾郡大桑村阿寺国有林内の阿寺溪谷において、大桑村、大桑村議会、関係団体から構成される、「阿寺溪谷管理運営協議会」による阿寺溪谷景観整備作業が行われま